様式1

令和5年度　山梨県立韮崎学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	「人間を育てる」 ○自ら学ぶ態度の育成　○体力と気力の充実　○全人的な人格の形成

山梨県立韮崎学校校長　野崎　哲司

本年度の重点目標	
	熱い志を持ち、粘り強くチャレンジしようとする生徒の育成に努める。
	主体的に自分の良さを伸ばし、社会発展に寄与しようとする生徒の育成に努める。
	文武両道を貫き、切磋琢磨する中で、たくましく、しなやかな心をもった生徒の育成に努める。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（1月17日現在）			実施日　（令和6年2月15日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	熱い志を持ち、粘り強くチャレンジしようとする生徒の育成	「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置いた授業改善と、少人数教育・習熟度別教育を生かした学びを実践する。 観点別評価の適切な運用をさらに工夫し、指導の効果や効率を高める。 ICT教育を充実させ、情報活用能力を育成する。	授業アンケート 教職員アンケート 授業アンケート	・「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業改善に取り組んでいる教職員が多く、生徒からの評価も肯定的である。 ・観点別評価の適切な運用に向けた取り組みを引き続き行っているが、教職員の負担感は大きく、効果や効率のアップには一層の工夫が求められる。　・ICT機器の利用場面が増えた。特に大型モニターは、わかりやすい授業展開に役立っている。	B	・「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置いた授業改善と、少人数教育・習熟度別教育を生かした学びの実践は現状を継続していく一方、ICT機器を活用して情報活用能力を高めていくことに力を注いでいく。 ・観点別評価に関する生徒及び保護者の理解を深めるための取り組みを行う。	3	・評価は目標の理解がスタートなので、学校として伸ばしたい力を生徒、保護者に伝えていく必要がある。目指す姿を生徒、保護者、教職員が共有し、その上で指導にあたってほしい。 ・「年度末評価」がB（概ね達成できた）となっているが、さらにその上を目指し、努力を続けてほしい。 来年度への課題、改善点が明確に示されているので、来年度はこの点が改善されることを期待している。
2	主体的に自分の良さを伸ばし、社会発展に寄与しようとする生徒の育成	教科横断的な課題研究を推進する。 あらゆる教育活動を通じて、社会に目を向ける意識を育成する。 地域の小中学生や県内大学、海外姉妹校等との連携活動を実施する。	授業アンケート 事後アンケート 公開講座等への参加者数	・教科横断的な課題研究や学習活動の実施状況への評価は、教職員は低く生徒は高い結果となり、認識に食い違いがある。 ・社会に目を向ける意識を育成する活動は教員、生徒ともに肯定的評価が高い。 ・地域や県内大学との連携活動はコロナ前の状況には戻せなかったが、昨年度よりは拡大できた。	B	・教科横断的な学習活動について、量的にはある程度達成できているので、質的向上を目指す。 ・社会に目を向ける意識を育成するための実践活動をさらに継続していく。 ・部活動やSSHの活動において、地域や県内大学との連携活動を今年度以上に増やす。	3	・時代によって求められている能力が変わることを教員も念頭に置いて指導法を変えるべきである。 ・生徒アンケートに校則に関するものが多い。社会的に校則見直しの流れがあるが、生徒の側から校則を改訂していくような自主的な動きが出てくると望ましい。 ・「生徒が自分の良さを主体的に伸ばし、社会発展に寄与しようとする」のはとても素晴らしいことである。これからも生徒の活動をしっかりサポートしてほしい。
3	文武両道を貫き、たくましく、しなやかな心をもった生徒の育成	部活動を計画的に行い、生徒の心身の健全な育成と学校の活性化に努める。 交通安全意識や防災対応能力を高める取り組みを行う。 他者との関わりの中で人間性を磨く活動を多く取り入れる。	各種大会の結果、部活動への参加率 交通事故・違反統計 事後アンケート	・体育系、文化系ともに多くの生徒が所属して活発に活動しており、部活動が生徒の育成に大きな効果を上げている。その一方で勉強と部活動のバランスが適切ではないと感じている率は教職員、生徒ともに少なくない。 ・教育活動を通して人間性が高まったと感じている生徒が非常に多い。	B	・生徒及び保護者の声を聞きながら、勉強と部活動の、量、質を俯瞰してコントロールする意識をもたせたい。 ・生徒の人間的な成長を実感させる評価を行い、自己肯定感の向上につなげる。	3	・生徒や保護者の要望が多様化している。また、学校に何とかしてほしいという学校に寄りかかった意見が多い。しかし、高校時代に求められる人間的成長は不変のものである。自立した人間形成にこれからも尽力してほしい。 ・部活動の成果は良い成績を上げることだけではなく、その競技の本質を理解し、競技者のすそ野を広げる人材となることも含まれる。生涯スポーツという視点も大切にしたい。
4	快適な学校環境の整備	いじめや体罰のない学校全体の雰囲気づくりを進める。 教職員の業務内容の精選を図る。	いじめ調査、体罰調査 教職員アンケート	・今までなかったいじめ事案の報告が今年度は8件あった。しかしこれは状況が悪化したのではなく、いじめに対する認識が深まった結果であると考える。解決に時間のかかる案件もあり、教職員が連携して対応にあたっている。体罰については、報告はない。 ・特定の職員については時間外勤務時間がかなり多く、業務負担を割り振ることができず課題が多い。	B	・いじめ事案については判明後速やかにいじめ対策委員会を開くとともに、教職員が情報共有し連携して対応する体制がとれた。今後も同様の体制を維持していくとともに、生徒の人間関係を築く力を鍛えていく取り組みも考える必要がある。 ・業務負担の均等化は理想ではあるが現実的には難しい面が多い。せめて、体調の変化にお互いが気を配り、遠慮せず休める勤務環境をめざす。	3	・能力や経験の豊かな教員に業務が集中してしまう傾向があるが、次のリーダーを育てるためにも業務の分担が必要であることを共通認識して、業務の改善に努めてほしい。 ・生徒の、学校に対する意見に学校側もしっかり向き合って取り組んでいくことを期待する。 ・アンケートから、生徒の悩みに対応する相談体制が少ないとの傾向が見受けられるので、そこを強化していく必要がある。 ・人と人とのコミュニケーションを図るエリアの拡充してはどうか。